

I 本調査の目的と構成

開発予定地に猛禽類が生息し、その猛禽類の保護と開発との共存が求められることがしばしば起きる。特に猛禽類の生息地と人間の活動域が接している里山から低山にかけての地域では、そのようなことが起きることが多い。共存策を検討するためには、まず調査を行なうことが必要であるが、猛禽類は、警戒心が強く、目撃することが容易ではないため、その効率的な調査方法はまだ確立されていない。

そこで、平成10年から平成14年までの5年間、里山から低山に位置する栃木県宇都宮地域と鹿沼地域、そして長野県安曇野地域、飯綱地域において希少猛禽類の分布・繁殖状況調査、営巣環境調査、電波発信機を使った行動圏と利用環境の調査、巣にビデオをセットしての食物の調査などを行ない、その結果をもとに効率的な調査手法について検討した。

本資料はその結果についてまとめたものである。本資料で用いる図表は、特別の断りのない限り、本調査の結果であり、「栃木」は宇都宮、鹿沼調査地のことを、「長野」は安曇野、飯綱調査地のことを示す。

本資料の構成は、最初に、調査の結果から得られた各種猛禽類の生態について、次に調査結果をもとに事業を行う際の現地調査方法等の進め方について、そして最後に各種調査の詳細について、の順序でまとめた。